

60149

教科書文庫

6
810
39-1950
0/304 499/66

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

**C**  
**Y**  
**M**

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Inches 1 2 3 4 5 6 7 8  
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19  
20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30  
JAPAN  
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20  
Tajima

文部省検定済教科書



T1A7
170
3

3	小国 142
大書	

重松 鷹泰 監修

かぜの子

しよぶがく (こくわい)

一ねん下

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15  
JAPAN  
1 2 3 4 5

昭和 25 年 12 月 8 日 文部省検定済 小学校国語科用

# かぜの子

しょうがく こくご 一ねん下



大阪書籍株式会社

中央図書館

広島大学図書

0130449966



もくろく

一 おちば

(一) もみじのは

4

(二) おちばひろい

8

二 かぜの子

(一) しも

13

(二) かぜの子

20

(三) おつかい

22

(四) かいもの

26

三 おしやうがつ

(一) おしやうがつ

35

(二) うらしまたろう

41

(三) こよみつくり

51

四 ゆきの日

(一) ゆきの日

55

(二) たこ

62

(三) わすれもの

65

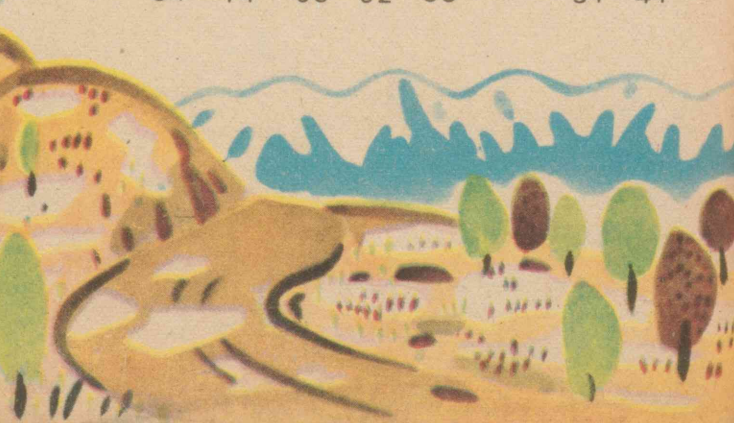
五 きんたろう

74

六 わたくしのけいこ

84

あたらしい ことば  
五十おん  
かんじ



— おちば

(一) もみじのは

がっこうの なかにわに、もみじの 木が  
あります。

もみじの はが、あかく なりました。

かぜが ふいて きて、一まい 二まい

三まい、ひらひらと おちりました。

一まいは、いけの 中に  
おちりました。

いけには、あおい そらが、

うつつて いました。

白い くもも、うかんで

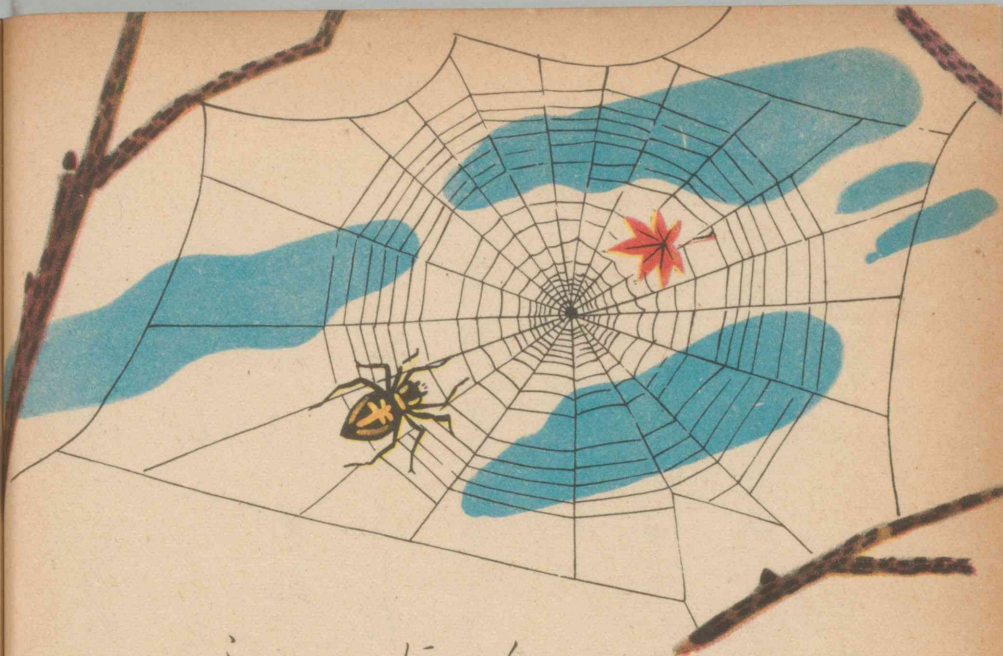
いました。

もみじの はは、白い く

もの 上で、ゆらゆら ゆれました。

こいが でて きて、ぱくりと のもうと しました。





一まいは、くるくるまわって、  
くものすにかかりました。  
すのまんなかにいた大きな  
くもが、あわててすみのほうへ  
にげました。  
かぜがふくと、もみじのはは、  
ふらりふらりとゆれました。  
くもは、じっとみていまし

一まいは、じめんに おちました。  
なかにわで あそんで いた あ  
いこさんが、それを ひろいました。  
あいこさんは、  
「まあ、きれいな もみじね。」  
と いいました。  
それを、きょうしつへ もって  
かえって、本の あいだに、そっと  
はさみしました。



(二) おちばひろい

みんなで、林へ おちばひろいに きました。

林の中は、あかや きいろの おちばで、みちも  
わからないくらいでした。

いろいろな 木のはを、ひろって かえりました。

かえってから、おちばひろいの ことを、みじかい

おはなしに かきました。

おちばで もようも つくりました。

○  
おちばを ふんで あるくと、

ばさり ばさりと おどが し

ました。

あしが うずまるくらいでし  
た。

はの おちた えだの あい

だから、あおい そらが みえ

て いました。



わたくしは、もみじの はと、いちょうの はを ひ  
ろいました。

もみじの はは、あかちゃんの 手のようでした。で  
も、さきが 七つ ありました。

いちょうの はは、おうぎのようでした。かおの そ  
ばで あおぐと、小さな かぜが きました。

いちょうの 木の 下は、きいろい きれを ひろげ  
たようで、ふむのが おしいほどでした。

わたくしは、いちょうの はを 二十まい  
ひろいました。

ぼくと さぶろうくんとで、いちよ  
うの 木を ゆすりました。  
いちょうの はが、ぱらぱらと  
おちました。



ふたりの かたにも、あたまにも かかりました。  
いちようの 木は、はが すくなく なって、さむそ  
うでした。

○

わたくしは、ふねのような かたちの はを あつめ  
ました。せんせいに、はの なまえを おききしますと、  
「それは かの はです。おかしい はでは ありま  
せんよ。」  
と、わらいながら おっしゃいました。

二 かぜの子

(一) しも

「きよしさん、ようこさん。おきて  
ごらん。しもが まっ白ですよ。」  
と、おかあさんが おっしゃいました。  
きよしさんが、がらすどを あけて  
外をみると、一めん まっ白でした。







おとうさんが にわの、おちばを  
 はいて いらっしやいました。  
 「ゆきのようね。」  
 と、ようこさんが いました。  
 おとうさんが、  
 「ゆきでは ないよ、しもだよ。」  
 と おっしやいました。  
 きよしさんは、きくの はをそつ  
 と、ゆびで なでました。



きよしさんは、すぐ ふくに きかえ  
 て、外へ でした。ようこさんも、  
 あとから でて きました。  
 はたけが 白く なって いました。  
 にわの きくの はなにも、はにも、  
 しもが かかって いました。  
 どこも かも 白くて、ちかちか ひ  
 かって いました。

ゆびの さきに、こまかい しおのような しもが  
つきましたが、すぐ きえて しまいました。

「やはり つめたいね。」

と、きよしさんが いうと、おとうさんは、

「しもだって つめたいよ。」

と、わらいながら おっしゃいました。

つめたいので、きくの はも、はたけの なも、ちぢ  
んで います。

ようこさんは、

「さむいわ。」

と いった、うちの中へ

はいりました。

きよしさんは、ほうきを

もって きて、おとうさんと

いっしょに、おちばを はき

はじめました。

おちばにも、しもが

ひかって いました。





おちばを はくと、下から  
くろい 土が でて きまし  
た。

しんぶんやさんが はしつ  
て きました。

「おはよう ございます。

たいへんな しもですね。」

と いった、おとうさんに

しんぶんを わたして いき

ました。

「きよしさん、かおを あらいま

したか。ごはんに しますよ。」

と、おかあさんが、うちの

中から おっしやいました。

きよしさんは、

「はい、もう すぐです。」

と、へんじを しました。



(二) かぜの子

ぼくらは かぜの子、  
そら かける。  
くる くる、  
木の はが  
とぶ 中を、  
ぼーる けり けり、  
そら かける。



おせ おせ、おしくら。  
へいの 外。  
ぱら ぱら、  
木の はが  
ちる 中で、  
かけごえ かけ かけ、  
そら おそう。





(三) おつかい

ぼくは、おばさんのうちへ、おつかいにいきました。  
 ふろしきづつみを おとさないように、しっかきも  
 ちました。

てがみも ちゃんと ぽけっ

とに いれました。

ひとりで いくのは は

じめてです。

おかあさんは、



「だいじょうぶなの。」

と、おっしゃいました。ぼくは、

「だいじょうぶです。」

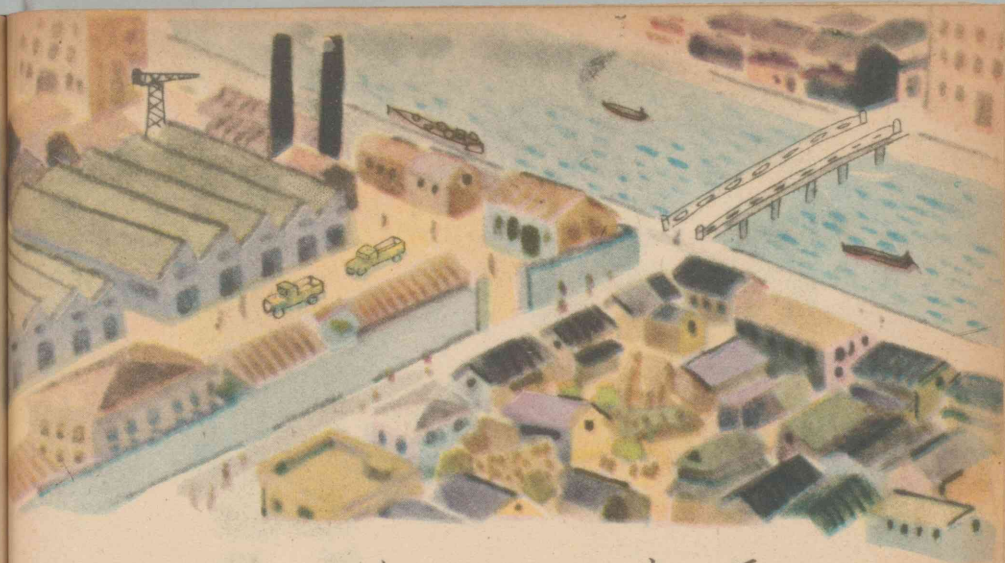
と、大きな こえで いいました。

こうえんを とおって いきま

した。

まもるくんの うちの そばを

とりました。



それから、こうばのよこをとおつて、くすりやさんのかどをまがって、大川のはしをわたって、いきました。

おばさんのうちへついて、

「おばさん、こんにちは。」

と、ぼくはげんきよくはいつていきました。

おばさんは、

「ひとりできたの。よくきたね。」

と、おっしゃいました。

「おかあさんがいそがしくてこられないから、ぼくがきました。このてがみをよんで、へんじをください。それから、もってかえるものがあつたら、ぼくがもってかえります。」

と、いきました。



(四) かいもの

きのうの にちように、いなかの

おばあさんと、ひろしくんが きました。

おばあさんは、

「きょうは、わたしの めがねを か

いに きたのよ。うっかり おとし

て、わって しまったのでね。」

と おっしゃいました。そうして、



「きよしさん、いっしょに いって くれますか。」

と、ぼくを みて にこにこ なさいました。

おかあさんが、

「ほら、本町の ゆうびんきよくの となり、めがね

やさんが あるでしょう。きよし、いって おあげ」

と おっしゃいました。

おばあさんと ひろしくんと、ぼくとで でかけまし  
た。

本町まで、ばすにのって、いきました。

ばすは、こんで、いきましたが、よそのおじさんが、

おばあさんに、せきを、ゆ

ずって、くださいました。

ばすを、おりると、にぎ

やかな、とおりでした。

たくさんの人が、とお

て、いました。

どの、みせも、きれいに



かざって、ありました。

さかなやさんには、た

いや、たこや、かにが、

ならべて、ありました。

さけが、てんじようから

さげて、ありました。

くだものやさんには、

みかんや、りんごが、た

くさん、ならべて、ありました。







どれも みせの かがみに  
うつつて、きらきら ひかつ  
て いました。

おもちゃやさんには、かる  
たが ならべて ありました。  
大きな はごいたも かぎつ  
て ありました。たこが ぶ  
らぶら ゆれて いました。

「ゆうびんきょくは どこだったかしら。」と おもいな  
がら いくと、みつかりました。

その となり、めがねや とけいを うって いる  
みせが ありました。

「おばあさん、ここです。」

と、ぼくは おもわず 大きな こえで いいました。

みせの 人は、いろいろな めがねを みせて くだ  
さいました。

おばあさんは、いくつもか  
 けてみて、ふちのくろい  
 めがねにきめました。

「おばあさん みせて。」

と、って、ひろしくんがめが  
 ねをかけました。めがねがぶ  
 らんとはなさきにかかりまし  
 た。ぼくもかけてみました。  
 まわりのものが、ぼうつとみえました。

みせを てる とき、ぼくが

「おばあさん、めがねを かけて なにを みるの。」

と おききしますと、おばあさんは、

「めがねを かけて、しんぶんを みますよ。ぎっしも  
 みますよ。ひろしの くつしたも つぎますよ。」

と おっしゃいました。

かえる とき、ひゃっかてんで、ふたりに けいどの  
 手ぶくろを かって くださいました。



かえりの ばすも、こんで  
ましたが、とちゅうで 一つだけ  
せきが あきました。

おばあさんは、

「こんどは ふたりが おかけ。  
と、おっしやいました。けれども

ぼくらは、

「おばあさん おかけなさい。」

と いった、立って きました。

### 三 おしよがつ

(一) おしよがつ

あさ はやく、おとうさんと もんに こつきを 立  
てました。

あたらしい こつきでした。

おとうさんは、こつきを はたぎおに むすびました。





りど みえました。  
 まっ白なところに、まっかな 日のまるが、くつきりき

ぼくは さおの さきに、  
 きんいろの たまを さし  
 ました。

立てると、こつきは ぱ  
 たぱたと おとを たてて、  
 ひらきました。

ひろしくんから ねんがじょうが きました。  
 ねんがじょうには、えが かいで ありました。  
 山から はつ日が でて いる えです。  
 上の ほうに 「おめでどう。」  
 と、かいて ありました。  
 ぼくも、すぐ ひろしくんに、  
 ねんがじょうを かきました。  
 こつきを 立てた ところを、えに かきました。



よる、ひさおくと あい  
こさんが きました。みんな  
で かるたを とりました。  
おとうさんが よみました。  
「子どもは かぜの 子、  
げんきな 子。」  
ひさおくんが とりました。

「ふるふる ゆきが、  
のに 山に。」  
ぼくが とりました。  
「あさ日が、きらきら  
うみの 上。」  
あいこさんが とりました。  
「にんじん すきな  
うさぎさん。」  
これは ようこの すきな





ふだですから、ようこが、だ  
れよりも さきに とりまし  
た。  
かるたが すんでから、ひ  
さおくんが、うらしまたろう  
の かみしばいを みせて  
くれました。



二 うらしまたろう

うみべで、子どもが かめを  
つかまえて、あそんで いました。  
「この かめを ころがして み  
よう。」  
「おもしろい。」  
「おもしろい。」  
「よいしょ よいしょ。」



うらしまは、その かめを に  
 がして やりました。  
 「かめさん、げんきを だして  
 おかえり。おうちで みんなが  
 まって いるだろう。」  
 かめは、うれしそうに、うみの  
 中へ はいって いきました。



そこへ、うらしまたろうが やっ  
 て きました。  
 「かわいそうだから にがして  
 おやり。」  
 「いやだよ、いやだよ。」  
 「では、わたしに うって おく  
 れ。」  
 「うん、うって あげよう。」



おのり ください。」

うらしまは、かめに つれられ  
て りゆうぐうへ きました。

「あれが りゆうぐうの ごもん  
で ございます。」

「やあ、きれいな ごもんだね。」

「さあ、ごてんに まいりましよ  
う。」



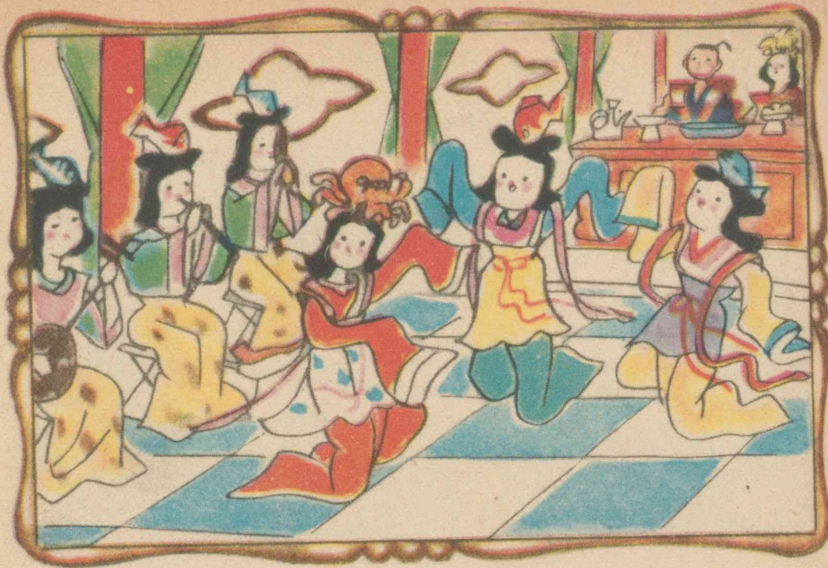
ある日、うらしまが つりを  
して いると、かめが 出て き  
ました。

「うらしまさん、うらしまさん。」

「おや、この まえの かめさん  
だね。」

「はい、この あいだの おれい  
に、りゆうぐうへ おつれ し  
ましよう。わたしの せなかに





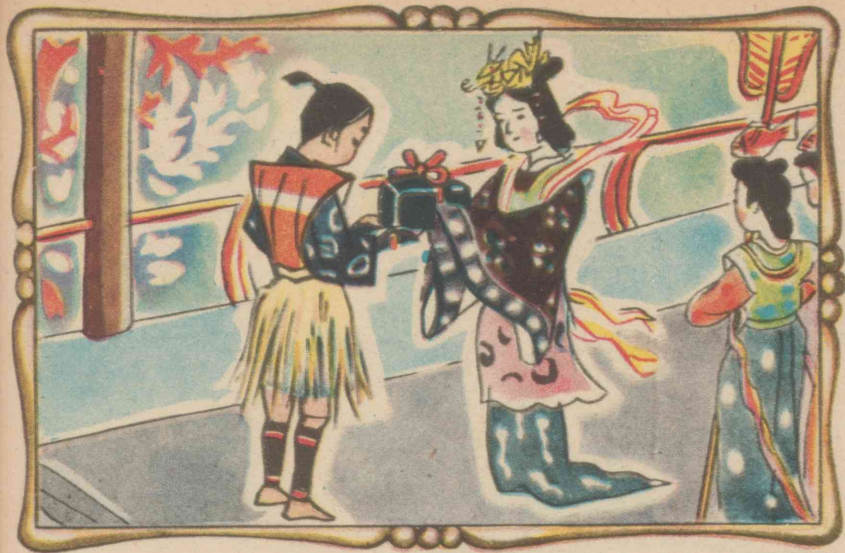
たくさん、めずらしい ごちそ  
 うが 出ました。おもしろい う  
 おの おどりも はじまりました。  
 「どうぞ、ごえんりよなく めし  
 あがって ください。」  
 「どうも ごちそうさまで ござ  
 います。こんな たのしい こ  
 とは はじめてです。」



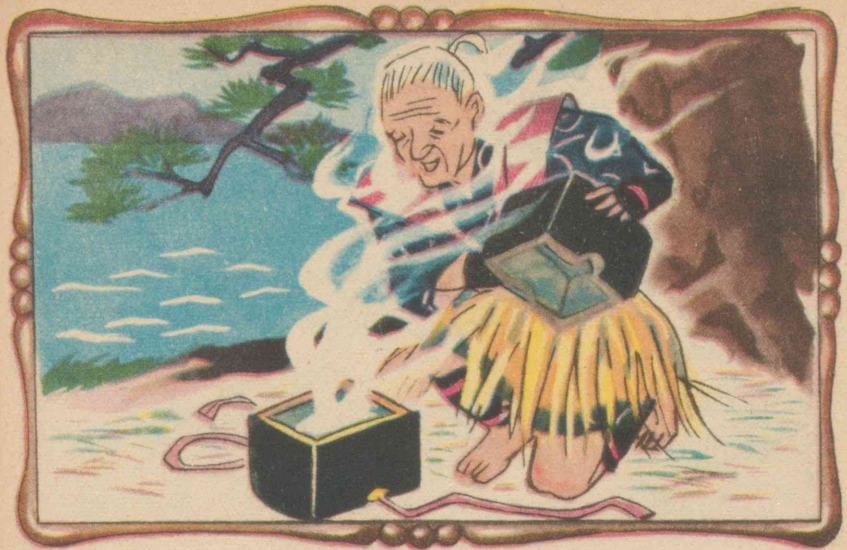
うらしまは ごてんに はいり  
 ました。いろいろな うおが 出  
 て きました。その あとから  
 おどひめさまが 出て きました。  
 「よく いらっしやいました。ど  
 うぞ、ゆつくり あそんで い  
 らっしやいませ。」



うらしまは、またかめのせ  
なかにのってかえりました。  
「では、おとひめさま さような  
ら。」  
「ごきげんよう。さようなら。」  
「たいさん、たこさん、さような  
ら。」  
「うらしまさん、さようなら。」



まいにち こうして いる う  
ちに、うらしまは うちへ かえ  
りたく なりました。  
「では、おみやげに たまてばこ  
を さしあげましょう。この  
たまてばこは、どんな ことが  
あっても、おあけに なっては  
いけません。」



じぶんの むらに かえっても、  
だれも しらない 人ばかりです。  
うらしまは、さびしく なって、  
たまてばこを あけました。する  
と、中から 白い けむりが、ふ  
わりと 出て、わかい うらしま  
は、みるみる しらがの おじい  
さんに なりました。

(三) こよみ つくり

みんなで、一月の こよみを つくりました。

せんせいが、よう日 せんとを すった かみを く  
ださいました。

それに 日 を かきこみました。

「上の あいた ところに、一月の えを かきましょ  
う。どんな えが いいでしょうね。」  
と、せんせいが おっしゃいました。

「たこあげ。」

「かどまつ。」

「はねつき。」

「はつ日の出。」

などと、みんなが めいめい

いいました。

みんな すきな えを か

きました。

「二月も つくりたい。」

と、みんなが いいました。

それで、二月も つくる こ

とに なりました。

一月と おなじように して

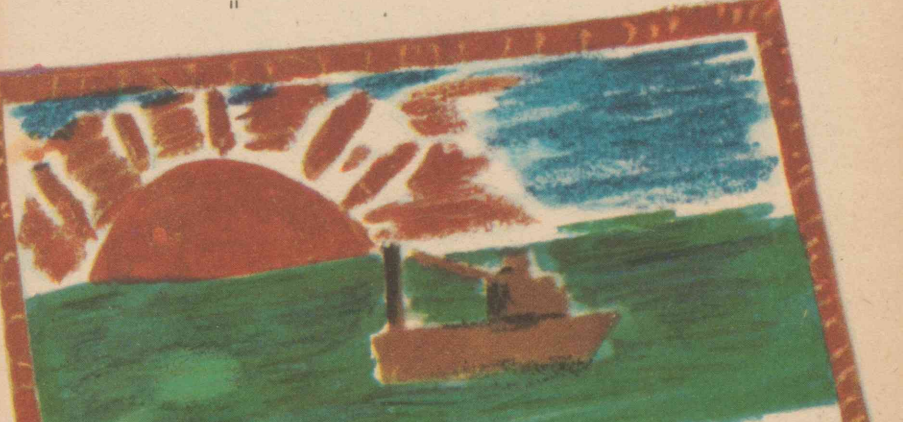
つくりました。

えは、ゆきだるまや まめまき

や うめの はななどでした。



日	月	火	水	木	金	土
-	-	-	-	-	1	2
3	4	5	6	7	8	9



日	月	火	水	木	金	土
-	-	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12

「三月も つくりたい。」

と、またみんなが いました。

それで、三月も つくる こ

とに なりました。

えは、おひなさまや ももの

はなや つくしなどでした。

「三月が おわると、二ねんせ

いになるのですよ。」

と、せんせいが おっしゃいました。

#### 四 ゆきの日

##### (一) ゆきの日

ゆきが ふって ききました。

みんなは まどの 外を

みて、

「ゆきだ、ゆきだ。」

と いました。

ゆきは ちらちら ふって いました。





先生が こくばんに、

ゆきが ふる

と、おかきになりました。

「まつの 木にも、ささの はに  
も ふる。」

と、だれかが いました。

先生は、また その とおり お  
かきになりました。

「いけの 中に すつと きえる。」

と、また だれかが いい  
ました。

先生は、また それを

おかきになりました。

みんなは、おもしろがって、

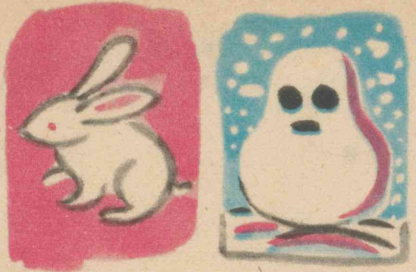
いろいろな ことを いいま  
した。

先生は、みんなの いった ことを、  
つぎつぎに おかきに になりました。






ゆきが ふる。  
 まつの木にも、ささのはにもふる。  
 いけの 中に すつと きえる。  
 そらから いくらでも ふつて くる。  
 やねが だんだん 白く なる。  
 ゆきの つもるの はやいなあ。  
 「つづけて よんで ごらんさい。  
 みじかい ぶんが できました。」  
 と、先生が おっしゃいました。



「ゆきで、おもいだす ものは ありませんか。」  
 と、先生が おっしゃいました。



いろいろな ものを、つぎつぎに おもいだしました。  
 それを 三つずつ かみに かきました。



あとでよみあうと、めいめいちがって  
いました。  
「ひとり ひとり ちがうものですね。」  
と、先生は おっしゃいました。

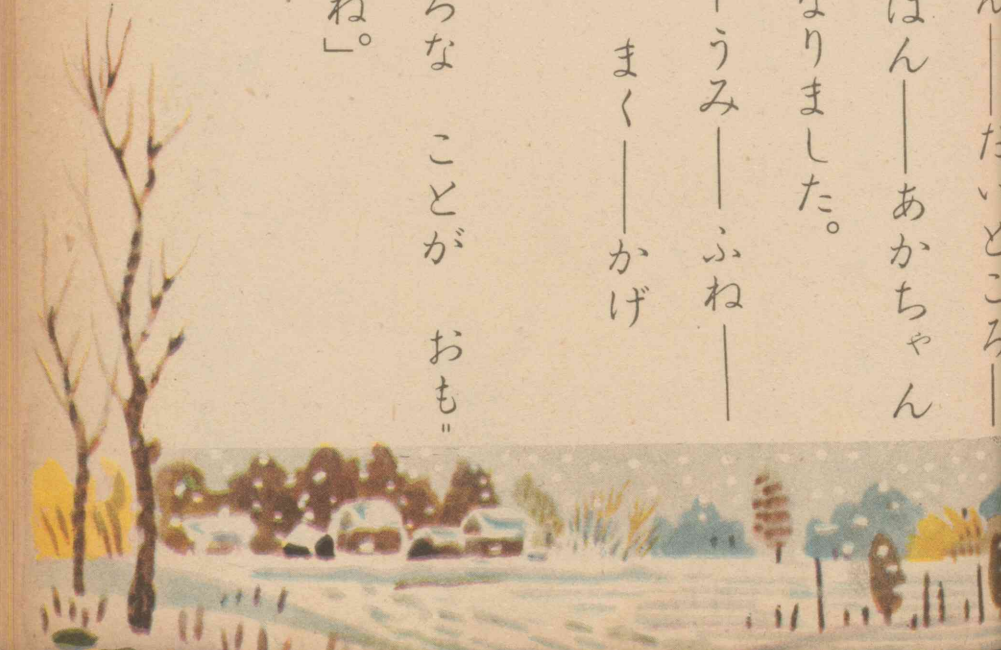
○  
あいこさんは、ゆきから ゆきだるまを おもい  
だしました。

ゆきだるまから、たどんを おもいだしました。  
おもいだした ことを、つぎつぎに つないで  
かいて いくと、つぎのように なりました。

ゆき——ゆきだるま——たどん——だいどころ——  
なべ——おかあさん——ごはん——あかちゃん  
ひさおさんは、つぎのように なりました。

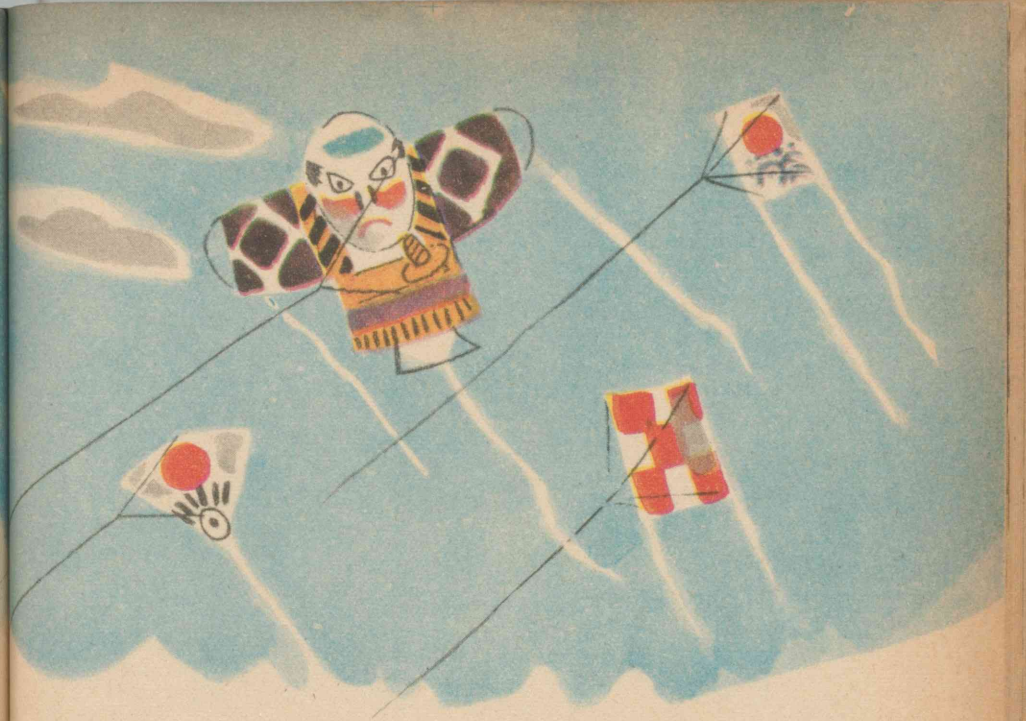
ゆき——山——まつの 木——うみ——ふね——  
かもめ——えいが——白い まく——かけ

「一つの ことばから、いろいろな ことが おも  
いだされて、おもしろいですね。」  
と、先生は おっしゃいました。





たろうさんは、やっこだこを あげました。  
 どの たこも、きょうそうのように、そら た  
 かく あがって いました。  
 たろうさんの やっこだこは、だれのよりも、  
 たかく あがろうと しました。  
 やっこだこは、ぐんぐん  
 いとを ひっぱりました。  
 あまり ひっぱったので、



(二) たこ  
 先生が、どうわを よんで  
 くださいました。  
 あおい そらに、たこが い  
 くつも あがって いました。  
 じだこも えだこも あがっ  
 て いました。

いどが ぷつりと きれました。

ちようど そのとき、かぜが ふいて きました。

やつこだこは、どんだんかぜに ふきとばされました。

先生は、そこで よむのを おやめに なって、おつ  
しゃいました。

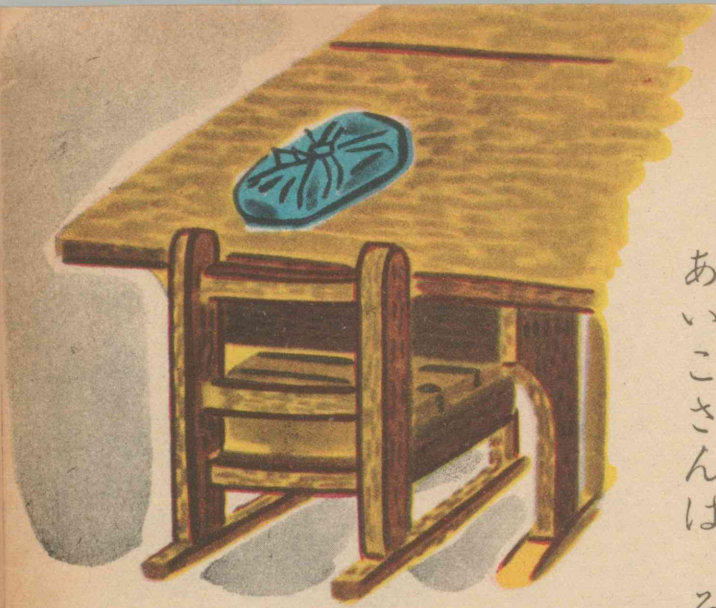
「まだ、つづきが あるのです。これから やつこだこ  
はどう なるでしょうか。めいめい、この つづき  
を かんがえましょう。」

(三) わすれもの

きよしさんと あいこさんは、  
いつも いっしょに 学校から  
かえります。きよう、ふたりが  
かえる ときの ことでした。

しばらく あるいて、町かどの  
ぼすの ところまで きた とき、  
あいこさんが きゆうに 立ちどまって、





つんだ おべんとうばこが、あいこさんの つくえの  
上に、のって いました。

あいこさんは、それを かばんの 中へ いれました。

「だれも いないから、さびしい  
ね。」

と、きよしさんが いました。

はしらどけいの おとが、かち  
かちと きこえました。

「あら、学校に おべんとうばこを わすれて きたわ。  
どう しましよう。」  
と いました。そうして、あわてて それを とり  
かえろうと しました。  
きよしさんは、  
「それなら、ぼくも 行って あげよう。」  
と 行って、ふたりは、また 学校へ ひきかえしまし  
た。  
いそいで きょうしつへ はいると、はんかちに つ



かびんの花が、じっとこちらをみています。  
かべに、はってあるえが、かざりとおとをたて  
ました。

「あらあら、あそこのまどが あいて いる。しめて  
いきましよう」

と、あいこさんが いました。

ふたりは、あいて いる まどを しめました。

みると、まどぎわに、え本が 一さつ おちて いました。

「だれか かたづけけるのを わすれて いったのだな」

と いった、きよしさんが

ひろいました。

「つみ木も おちて いるわ」

あいこさんは つみ木を

ひろいました。





い	き	し	ち	に	ひ	み	い	り	お
う	く	す	つ	ぬ	ふ	む	ゆ	る	う
え	け	せ	て	ね	へ	め	れ	え	え
あ	こ	ぞ	と	の	ほ	も	よ	ろ	を

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

「たなの え本を そろえて  
おこうか。」  
と、きよしさんが いいました。  
「わたしは つみ木を はこに  
ならべるわ。」  
と、あいこさんが いいました。  
ふたりは たなの 上を、き  
ちんと かたづけました。

「これを かたづけて おこう。」  
と、きよしさんが いいました。  
「そう しましょう。」  
と、あいこさんも いいました。  
もう、なにか おちて いな  
いかと おもって、ふたりは、  
きょうしつを みて まわりま  
したが、なにも ありませんで  
した。

「だれが、いつも かたづけで くださるのでしょう。  
先生かしら。」

と、あいこさんが いいました。

「だれだろう。でも、きょうは ふたりで かたづけた  
から、その 人 きつと よろこぶよ。」  
と、きよしさんが いいました。

ふたりは、かおを みあわせて にこにこ しました。  
かえる とき、きよしさんは、だれも いないのに、  
「さようなら。」

と、大きな こえで いいました。

とけいは、かちかち なって  
いました。

かびんの 花は、じつと  
こちらを みて いました。

「さようなら。」

あいこさんも 大きな  
こえで いいました。



五 きんたろう



あしがら山の きんたろうは、  
げんきな子どもでした。  
けだものたちと なかよしで、  
まいにち いっしょに あそんで  
いました。  
きょうも、みんなで すもうを  
はじめました。  
くまが、大きな てのひらで

土を ほって、どひょうをつくりました。

はじめは、うさぎと さるが

とりくみました。

しかが ぎょうじになり

ました。

「はっけよい、はっけよい。

のこった、のこった。」

さるは、うさぎの ながい

みみをつかんで、なげだそ



うと しました。うさぎは、さるの みじかい おを  
つかんで、たおそうと しました。

どちらも いたくて、いっしょに たおれました。

こんどは、しかと くまが とりくみました。

うさぎが ぎょうじに なりました。

くまは、しかの つのを もって なげつけました。

しかは すってんころりと ころがりました。

こんどは きんたろうが 立ちあがって、くまと ど  
りくみました。

きんたろうは、くまの  
からだに 足を かけて、  
たおしました。

くまは ごろりと こ  
ろがりました。

きんたろうは、

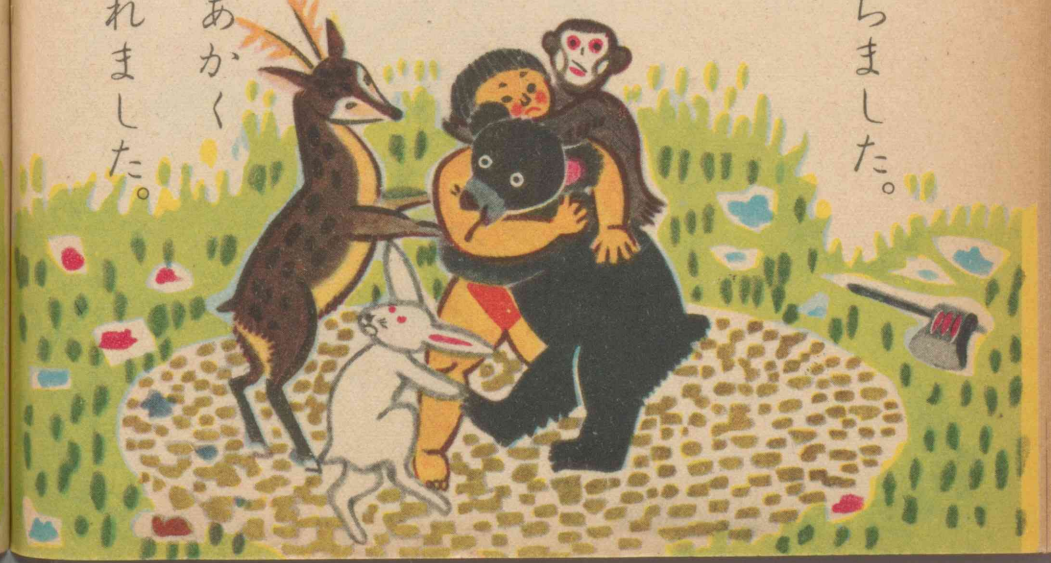
「さあ、みんな 一どにかかって おいで。」

と いいました。うさぎと さると しかと くまが、  
一どにかかって きました。





うさぎは きんたろうの 足を もちました。  
 さるが くびに ぶらさがりました。  
 しかが こしを おしました。  
 くまが むねに くみつきました。  
 みんなは うんうん いました。  
 けれども、なかなか きんたろうを  
 たおす ことは できません。きんた  
 ろうは、あかい かおを いっそう あかく  
 して、からだじゅうに ちからを いれました。



からだを ひとふり すると、うさぎも  
 さるも しかも くまも、みんな 一どに  
 ごろごろ どさりと、どひょうの外に  
 なげだされて しまいました。  
 「おなか すいたね。さあ、み  
 んなで おむすびを たべよう。」  
 みんなは、きんたろうの まわりに  
 まるく すわって、おむすびを たべ  
 ました。





て、ながれて いました。

「こまったな。はしが ない。」

と、うさぎが いました。

みんなも、

「こまったな、こまったな。」

と、 いました。

しかは、

「あとへ ひきかえそうよ。」

と、 いました。



日が くれかけました。

みんなが そろって かえる か

えりみちでした。

きんたろうは、まさかりを かつ

いで、みんなの うしろから いき

ました。

大きな たに川の ところへ 出

ました。

水が ごうごうと おどを たて



きんたろうは まさかりを なげだして、川の きし  
に 立って いる ふとい 木に だきつきました。

「ええい。」

と こえを かけて、二三ど お  
すと、ふとい 木が、めりめりと  
たに川の上 に たおれかかりま  
した。

「はしが できた。」

と いった、さるが 一ばんに

わたりました。

みんなも よろこんで わたりました。

一ばん しまいに、きんたろうが まさかりを かつ

いで わたりました。

ゆう日が もりの 中まで さして いました。

きんたろうの かが、

あかあかと かがやいて

いました。



六 わたくしの けいこ

一 おちば

木の はが きれいな いろに なりました。

○(一)を、きれいな こえて よんで ごらんなさい。  
三まいの もみじの はを、一まいずつかわりあつて よむど おもしろいでしょう。

○のはらや 林へ 行って、みた ことを、みじかいぶんに かきましよう。

二 かぜの子

さむく なくても、きよしさんたちは げんきです。

○きよしさんは、しをを みて、どんな ところに きがつきました。かいて ごらんなさい。

○あなたは、あさ どんな ことを しますか。はなして ごらんなさい。

○(二)を げんきよく よみましよう。

○あなたは、おつかいに いった ことがありますか。その ときの ことを、はなして ごらんなさい。

なんと 行って、おつかいに いきましたか。

○きよしさんは、おばあさんと いっしょに、めがねを かいに 行って あげました。きよしさんが にかけてから、かえるまでの ことを、じゅんじゅんに はなして ごらんなさい。

○あなたが、かいものに いった ときの ことを、 でかける ときから かえるまで、じゅんじゅんにかいて ごらんなさい。

三

おしょうがつ

おしょうがつには、いつもと かわった ことが たくさん あります。

○あなたが おしょうがつに した ことを、ぶんに かけて ごらんなさい。えも いっしょに かくと、 よく わかります。

○あなたの した かるたの ことばを おもいだして、 かけて ごらんなさい。

○五十おんを みなから、一つ一つ かるたの こと

ばを つくりましょう。

○(二)の、かみしばいの えを みなから、うらしまた  
ろうの おはなしを して ごらんなさい。

○きよしさんたちは、みんなで こよみを つくりま  
した。あなたも こよみを つくって、あなたの  
へやに はりましょう。

四

ゆきの 日

さむい 日にも、たのしい ことや おもしろい

ことが あります。

○(一)で、きよしさんたちが したように、あなたがた  
も、みんなで ぶんを つくりましょう。

○きよしさんたちが したように、一つの ことばか  
ら おもいだす ことばを、かいて みましょう。

○たこの どうわの つづきを かんがえて、はなし  
て ごらんなさい。

○(三)は、ながい ぶんです。すらすら よめるように  
しましょう。

○わすれものを して、きょうしつへ ひきかえした  
 あいこさんたちは、きょうしつで どんな ことを  
 しましたか。かいて ごらんなさい。

五

きんたろう

きんたろうは、げんきで つよい 子どもです。

○この おはなしを、おうちの 人に よんで あげ  
 ましょう。

○よんで おもしろい ところを 行ってごらんなさい。

あたらしい ことば

あおぐ	10	いっそう	78	おおかわ	24	かがやいて	83
あき(ました)	34	いっも	21	おかし	12	かきこみ(ました)	51
(お)あげ	27	いと	65	おしい	10	かし(のは)	12
あき	35	いや	42	おしくら	21	かたづける	69
あさひ	39	うお	26	おせ	21	かついで	80
あし	9	うかん	5	おちば	4	(一)がつ	51
あたま	12	うかんで	46	おど	9	かど	24
あたらしい	56	うずまる	9	おどきな(おどして)	22	かどまつ	52
あるひ	44	うっかり	26	おどり	47	かに	29
		うつて	31	おなか	79	かびん	68
		うつて	5	おなじ	53	かみ	51
いくつも	32	うつて	31	おひなさま	54	かみしばい	40
いくらでも	58	うめ	53	おめでどう	37	かめ	41
いけません	48	うれしそう	43	おもちゃ	30	かもめ	61
いそがしくて	25			おもわず	31	がらすど	13
いたくて	76			おりる	28	かるた	30
いちど(に)	77	えいが	61	おわる	54	かわいそう	42
いちばん	82	えだ	9				
いちめん	13	(こ)えんりよなく	47	かいもの(かい)	26	かんがえ	64
いちよう	10			かえりみち	80	きえて	16
いっしょに	17	お	76	かがみ	30	きかえて	14

だきつき(ました)	82	つないて	60	なげだそう	75
たこ	29	つめたい	76	なげつけ	76
たちあがつて	30	つもる	16	なさい(ました)	27
たちどまつて	76	つり	58	なべ	61
たどん	65	つれ(られ)	44	ならべて	29
たな	61		44	にねんせい	54
たのしい	71	てかけ(ました)	27	にんじん	39
たまたばこ(はこ)	47	てのひら	74	ねんがじょう	37
だれよりも	48	てぶくろ	33	の	39
だんだん	58	どうも	47	のこった	75
ちから	78	どちら(も)	34	のもう	5
ちがつて	60	どなり	29	はいて	15
ちぢんだ	16	どの	28	はいり(ました)	17
ちやんと	22	どひよう	75	はごいた	30
ちようど	64	どりくみ	75	はさみ(ました)	7
つき(ます)	33	どれ(も)	30	はし	24
つくえ	67			はしって	18
つつみ	22			はしらどけい	67
つつけて(つつき)	58				

(お)きき	12	こい	5	すいた	79
きく(のはな)	14	こうして	48	(くもの)す	6
きめ(ました)	32	こうば	24	すいた	76
きゆうに	65	ごきげんよう	49	しんぶんや	18
きようしつ	7	こくばん	56	しらない	50
きようそう	63	ごさい(ます)	18	しらが	50
きようじ	75	ごつき	35	(お)しょう(がつ)	35
きれ	10	ごてん	45	しも	13
きれ(ました)	64	この	25	しめ	7
きん(いろ)	36	ごはん	19	じめん	68
		こまかい	16	じぶん	50
		こよみ	51	しめて	50
くすりや	24	これ(は)	39	しめ	65
くつきり	33	これから	64	しめ	22
くつした	36	ころがして	41	しめ	75
くも	6	こんで	28	しめ	16
くらい	8	こんにちば	24	しめ	12
				しめ	50
けいと	33	さかなや	29	しめ	50
けり	20	さき	16	しめ	18
げんきよく	24	さけ	29	しめ	50





校 こ う (66)	出 で る (44)	川 か わ (24)	白 し ろ い (5)
花 は な (68)	月 が つ (51)	町 ま ち (27)	本 ほ ん (7)
足 あ し (77)	先 せん (56)	立 た つ (34)	林 は や し (8)
水 み ず (80)	生 せい (56)	日 ひ (36)	外 そ と (13)
	学 が く (66)	山 や ま (37)	土 つ ち (18)

かんじ

よみかえ

三みつ (59)  
七ななつ (10)

編者

監修

奈良女子高等師範学校教授  
同附属小学校主事

重松 鷹 泰

編修・執筆

奈良女子高等師範学校教諭

今井 鑑 三

笹倉 美 好

同 浜 真 喜 男

挿画

西山 英 雄

かせの子

しょうがくこくご  
ねんげん 下

(小学校 国語科  
第一学年 後期用)

昭和二十六年 月 日 印刷  
昭和二十六年 月 日 発行 定価 金 円

(昭和二十五年八月十二日 文部省検定済)

著作者 大阪書籍国語編修委員会  
代表者 重松 鷹 泰

発行者 大阪書籍株式会社  
代表者 松村 九兵衛

印刷者 大阪書籍株式会社  
代表者 松村 九兵衛

小国 142

発行所

大阪西成区津守町東二丁目五二番地  
大阪書籍株式会社

89



広島大学図書

0130449966



大阪書籍株式会社